

各関係機関長 様

佐賀県農業技術防除センター所長

大豆・野菜類・花き類におけるハスモンヨトウの 防除の徹底について



ハスモンヨトウの大豆圃場での発生及びフェロモントラップでの誘殺数が増加しています。今後は本虫の発生しやすい時期となるため、多発生する恐れがあります。

については、下記の事項を参考に防除対策を徹底してください。

1. 発生状況等

- 1) 大豆での巡回調査（9月2～5日、県内11地点、22圃場）では、幼虫の発生圃場率86.4%、発生株率15.5%（平年6.1%、前年2.0%）であり、平年及び前年より多い（図1、写真1）。ただし、発生量及び被害程度は、地区や圃場によって異なる。
- 2) 8月下旬の巡回調査の時点で野菜（イチゴ、アスパラガス）におけるハスモンヨトウによる食害株率は平年並であった。
- 3) 県内9地点のフェロモントラップでの雄成虫の誘殺数は、8月4半旬以降に増加し、平年より多く推移している（図2）。
- 4) 福岡管区気象台が9月8日に発表した九州北部地方の1か月予報では、向こう1ヶ月の気温は平年並と予想されており、今後も発生が継続する可能性が高い。

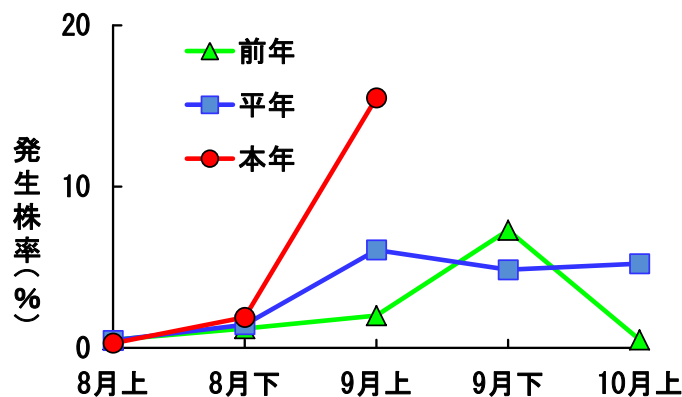


図1 大豆でのハスモンヨトウの発生推移
(県内11地点、22圃場を調査)



写真1 大豆でのハスモンヨトウによる被害状況
(平成28年9月5日撮影)

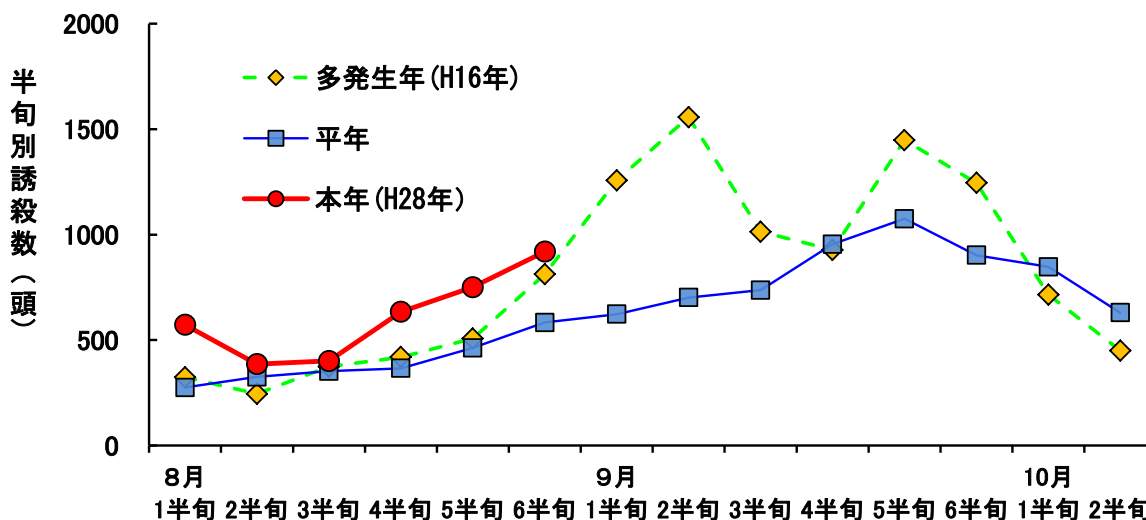


図2 フェロモントラップによるハスモンヨトウ雄成虫の半旬別誘殺数
 (農業共済組合、農業試験研究センター、農業技術防除センターによる県内9地点の平均誘殺数。ただし、年によっては、8月2半旬頃から調査開始の地点がある。)

2. 防除対策

【大豆、野菜類、花き類全般】

- 1) 発生量は、圃場毎に大きく異なっているため、必ず各圃場での発生状況を確認する。
- 2) 幼虫は、齢が進むと薬剤の防除効果が上がりにくいことから、若齢幼虫期に防除を行う。
- 3) 幼虫が大きくなると日中は物かげにかくれ、夜間に活動する習性があるので、薬剤散布は夕方に行う。なお、中・老齢幼虫には、粉剤より液剤（水和剤、乳剤、フロアブル剤等）の効果が高い。
- 4) 薬剤は虫体によくかかるよう丁寧に散布する。
- 5) 薬剤防除に当たっては、使用方法（収穫前日数等）を遵守する。
- 6) 今後のフェロモントラップにおける誘殺状況はホームページ
http://www.pref.saga.lg.jp/ki_ji_00322082/index.html を参照する。

【大豆】

- 1) 白変葉が散見され始めたら、早急に防除を行う。なお、すでに薬剤防除を行った圃場においても新葉での白変葉や幼虫の発生がみられる場合は追加して薬剤防除を行う。

【野菜類・花き類】

- 1) 今後、圃場内に成虫が侵入し、食害が発生する恐れがあるので、施設開口部に防虫ネット（4mm 目以下）を被覆する。
- 2) 卵塊やふ化幼虫は見つけ次第除去する。
- 3) アスパラガスでは、圃場内外に交信攪乱用の性フェロモン剤を設置して、成虫の交尾阻害を行い、生息密度の低下を図る。
- 4) 幼虫の寄生や被害が見られたら早急に防除を行う。

表2 ハスモンヨトウの主な防除薬剤 ※佐賀県施肥・病害虫防除のてびきに掲載している薬剤を記載
大豆(無人ヘリコプターによる散布を除く)

IRACコード	系統	薬剤名	成分名	希釈倍率	10a当たり 使用量	使用時期	本剤の 使用回数
1A	カーバメイト系	ラービフロアブル	チオジカルブ	750~1000倍	—	収穫14日前まで	2回以内
		ランネート45DF	メソミル	1000~2000倍	100~300L	収穫14日前まで	4回以内
3A	ピレスロイド系	トレボン乳剤	エトフェンブロックス	—	4kg	収穫14日前まで	2回以内
		トレボンEW	エトフェンブロックス	1000倍	100~300L	収穫14日前まで	2回以内
		アタフロ乳剤	クロルフルアズロン	2000~4000倍	100~300L	収穫14日前まで	2回以内
15	ベンゾイル尿素系	カスケード乳剤	フルフェノクスロン	4000倍	100~300L	収穫7日前まで	2回以内
		ノーモルト乳剤	テフルベンズロン	2000倍	100~300L	収穫14日前まで	2回以内
18	ジアシル-ヒドラジン系	マトリックフロアブル	クロマフェノジド	2000~3000倍	100~300L	収穫前日まで	3回以内
		ロムダン粉剤DL	テブフェノジド	—	4kg	収穫14日前まで	3回以内
		ロムダンゾル	テブフェノジド	1000倍	150~300L	収穫14日前まで	3回以内
11	BTと殺虫バク室質 生産物	フローバックDF	BT	1000倍	100~300L	発生初期 但し、収穫前日まで	—
22A		トルネードエースDF	インドキサカルブ	2000倍	100~300L	収穫7日前まで	2回以内
UN		ブレオフロアブル	ピリダリル	1000~2000倍	100~300L	収穫7日前まで	2回以内
28	ジアミド系	フェニックス顆粒水和剤	フルベンジアミド	2000倍	100~300L	収穫7日前まで	3回以内
		フェニックスフロアブル	フルベンジアミド	2000~4000倍	100~300L	収穫7日前まで	3回以内
		プレバソフロアブル5	クロラントラニプロール	4000倍	100~300L	収穫7日前まで	2回以内
		ペネビアOD	シアントラニプロール	2000~4000倍	100~300L	収穫7日前まで	3回以内
		ベガスフロアブル	フルベンジアミド	2000~4000倍	100~300L	収穫7日前まで	3回以内

UN：作用機作が不明あるいは不明確な剤

イチゴ

IRACコード	系統	薬剤名	成分名	希釈倍率	10a当たり 使用量	使用時期	本剤の 使用回数
1A	カーバメイト系	ラービフロアブル	チオジカルブ	1000倍	—	定植30日後まで	3回以内
11	BTと殺虫バク室質 生産物	デルフィン顆粒水和剤	BT	1000倍	100~300L	発生初期 但し、収穫前日まで	—
15	ベンゾイル尿素系	アタフロ乳剤	クロルフルアズロン	2000倍	100~300L	収穫前日まで	3回以内
		カスケード乳剤	フルフェノクスロン	4000倍	100~300L	収穫前日まで	3回以内
		ノーモルト乳剤	テフルベンズロン	2000倍	100~300L	収穫前日まで	2回以内
18	ジアシル-ヒドラジン系	ファルコンフロアブル	メトキシフェノジド	4000倍	100~300L	収穫前日まで	3回以内
		マトリックフロアブル	クロマフェノジド	2000倍	100~300L	収穫前日まで	3回以内
		ロムダンフロアブル	テブフェノジド	2000倍	100~300L	収穫前日まで	2回以内
13		コテツフロアブル	クロルフェナビル	2000倍	100~300L	収穫前日まで	2回以内
6	ミルベマイン系	アニキ乳剤	レビメクテン	2000倍	100~300L	収穫前日まで	3回以内
22A	アベルメクテン系	アフアーム乳剤	エマメクテン安息香酸塩	2000倍	100~300L	収穫前日まで	2回以内
		トルネードエースDF	インドキサカルブ	2000倍	100~300L	収穫前日まで	2回以内
28	ジアミド系	トルネードフロアブル	インドキサカルブMP	2000倍	100~300L	収穫前日まで	2回以内
		フェニックス顆粒水和剤	フルベンジアミド	2000~4000倍	100~300L	収穫前日まで	2回以内
		ペネビアOD	シアントラニプロール	2000~4000倍	100~300L	収穫前日まで	3回以内
UN		ブレオフロアブル	ピリダリル	1000倍	100~300L	収穫前日まで	4回以内

UN：作用機作が不明あるいは不明確な剤

アスパラガス

IRACコード	系統	薬剤名	成分名	希釈倍率	10a当たり 使用量	使用時期	本剤の 使用回数
11	BTと殺虫バク室質 生産物	ゼンタリー顆粒水和剤	BT	1000倍	100~300L	発生初期 但し、収穫前日まで	—
		デルフィン顆粒水和剤	BT	1000倍	100~300L	発生初期 但し、収穫前日まで	—
15	ベンゾイル尿素系	カスケード乳剤	フルフェノクスロン	4000倍	100~300L	収穫前日まで	2回以内
		ノーモルト乳剤	テフルベンズロン	2000倍	100~300L	収穫前日まで	2回以内
28	ジアミド系	フェニックス顆粒水和剤	フルベンジアミド	2000倍	100~300L	収穫前日まで	2回以内
		プレバソフロアブル5	クロラントラニプロール	2000倍	100~300L	収穫前日まで	3回以内
UN		ブレオフロアブル	ピリダリル	1000倍	100~300L	収穫前日まで	2回以内

UN：作用機作が不明あるいは不明確な剤

キャベツ

IRACコード	系統	薬剤名	成分名	希釈倍率	10a当たり 使用量	使用時期	本剤の 使用回数
1B	有機リン系	オルトラ水和剤	アセフェート	1000~1500倍	100~300L	収穫30日前まで	1回
1A	カーバメイト系	ラービフロアブル	チオジカルブ	750~1000倍	—	収穫7日前まで	4回以内
		ランネート45DF	メソミル	1000~2000倍	100~300L	収穫3日前まで	3回以内
6	ミルベマイン系	アニキ乳剤	レビメクテン	1000~2000倍	100~300L	収穫3日前まで	3回以内
5	スピロシリン系	ディアナSC	スピネトラム	2500~5000倍	100~300L	収穫前日まで	2回以内
22B		アクセルフロアブル	メタフルミゾン	1000~2000倍	100~300L	収穫前日まで	3回以内
28、4A	ジアミド系、ネオ ニコチノイド系	キックオフ顆粒水和剤	クロラントラニプロール、ジノテフラン	100倍	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(30×60cm、使用土壌約1.5~4.0L)当り0.5L	定植前日~定植時	1回
28	ジアミド系	ペネビアOD	シアントラニプロール	2000~4000倍	100~300L	収穫前日まで	3回以内
		ペリマークSC	シアントラニプロール	400倍	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(約30×60cm、使用土壌約1.5~4L)当り0.5L	育苗期後半~定植当日	1回

UN：作用機作が不明あるいは不明確な剤

キク

IRACコード	系統	薬剤名	成分名	希釈倍率	10a当たり 使用量	使用時期	本剤の 使用回数
11	BTと殺虫バク室質 生産物	ゼンタリー顆粒水和剤	BT	1000倍	100~300L	発生初期	—

バラ

IRACコード	系統	薬剤名	成分名	希釈倍率	10a当たり 使用量	使用時期	本剤の 使用回数
28	ジアミド系	フェニックス顆粒水和剤	フルベンジアミド	2000倍	100~300L	発生初期	4回以内

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部

〒840 - 2205 佐賀市川副町南里 1088

TEL (0952) 45 - 5297 FAX (0952) 45 - 5085